

# 令和2年秋期金沢中部地区推進連絡会

## 1 日時

令和2年10月26日（月） 17:15～18:40

## 2 場所

金沢八景コミュニティハウス

## 3 参加者

（地域側）自治会等地域団体関係	14名
（支援チーム、その他行政側）	
区役所	7名
区社会福祉協議会、地域ケアプラザ	3名

## 4 意見交換要旨

### 金沢区地域福祉保健計画、地区別計画の振り返りについて

#### ① 計画の取組状況（令和元年度振り返り）

※内容詳細は振り返りシート参照 シート記載のない発言について以下記載  
（自治会町内会）

- ・祭礼は自治会町内会ごとに開催。交流の場では1番の効果があり、顔の見える関係づくりに役立っている。
- ・防災訓練については、地域の実情に合った訓練を行っているが偏よっていることも課題としてある。
- ・自助・共助・公助の共助の部分がまさに自治会町内会の顔の見える関係づくりであり、地域の人が積極的に参加してることが必要。参加してもらえる工夫をし、顔の見える関係づくりができれば防災につながると考えている。

（異世代交流部会）

- ・地区の目標4つのうち「世代を超えて気軽に交流できる地域」「得意な事や経験を生かして主体的に活動に参加できる地域」の目標達成のための活動。
- ・例年6月半ば開催のボーリング大会、夏休み最初の日曜に開催する紙ヒコーキ、秋に柴のシーサイドファームで行うミカン狩りの3つの行事を通して楽しい交流の場としている。
- ・ボーリング大会は例年100人以上の参加がある。マイボールを作って楽しみにしている子どもや大人もいる。
- ・紙ヒコーキにも100人近くの参加あり。子供が参加することによって、親も参加し親子のほほえましい姿を見ることが出来る。
- ・ミカン狩り、昨年は180人の参加。ファームから富士山や海が見え、身近な所に楽しめる場所があることを知ってもらい、郷土愛を深める場にもなっている。
- ・子供が喜ぶこと、繰り返しやることで行事が定着。自治会町内会の連携が必

須で子供会役員の全面的な協力と他部会の協力のもと開催できている。  
地域の絆つながりにもなっている。

- ・今年コロナで行事はできないが、来年に向けて定期的な検討をしている。

(広報部会)

- ・4か月ごと年3回発行している。
- ・手に取ってもらえるよう写真をメインにしている。最新号はマルシェに間に合うように掲載発行した。
- ・広報活動状況の認知度が低く、各自治会町内会の役員会等でも活動の紹介PRをしてほしい。

(高齢者部会)

- ・いきいきサロン、新春懇親会などはトータル30回以上。1回30~40人の参加あり。マンネリ化しないように情報交換している。
- ・健康づくりの関係。特にコグニサイズなどには多数の参加がある。
- ・課題としては、担い手の高齢化や男性参加者が少ないことが挙げられる。食事提供の負担が多いという意見もあり、自治会町内会の婦人会に手伝いをお願いしたりしている。
- ・参加したことがない人が来づらいという話も聞くため、そういう方へのPRを検討したい。参加すると楽しいということをPRしていきたい。
- ・令和元年11月末現在70歳以上の一人暮らし262名  
災害時要援護者214世帯となっている。

(子育て支援部会)

- ・部会長が世代交代し、ホームページを作成した。子供の写真も掲載するため、参加者だけにQRコード付きの名刺を渡して、写真をダウンロードしてもらえるようにしている。
- ・山あり谷ありの縦長の地形の地区。3か所でサロン実施している。
- ・課題として、最近では保育園に行く方が多く、2歳児想定でプログラムを考えていても、0歳児が参加。内容の変更も検討が必要。1歳から保育園に出ると参加者も少なくなり、顔の見える関係が薄くなる。
- ・今回、アンケートを取る際に「私、部員なんですか」という声もあり、子育て世代のみならず部員の関心を上げなければいけない。  
片吹地区は担い手側がとても関心が高いため、サロンも盛況。
- ・今後の養育者支援については、孤独・孤立感が高まっていることもあり体だけではなく、心の支援が必要と思っている。
- ・コロナ禍でホームページから電話相談に至るケースもある。
- ・課題の芽は芽のうちに摘んでいける活動をしていきたい。

(社明運動)

- ・昨年11月池川明先生の「新しい子育てについて」講演したら盛況だった。
- ・テーマを明らかにすることで参加人数が多くなるため、参加しやすいテーマ

## ② アンケート集計の報告

※阿久津事務局長、田中会計よりアンケート報告 PP に添って説明

## ③ 意見交換 3期振り返り、4期に向けて

(中川会長)

・担い手の高齢化は共通課題。イベントに参加しない人の声には、既に参加している人が知り合い同士なので孤立してしまうのではとの危惧あり。誘われていくと「こんな感じで参加していいんだ」となる。

・PTA や自治会活動の不要論は出ていない人が唱えることが多い。仲間内の活動を思われないことが必要。祭りなどのオープンなイベント時にサロンにつながる広報等ができればいい。新しいイベントが定着してきたなら活用しては。

・ICT 活用もよいが、地域の最終手段は回覧板やちらし（紙）と思う。ネットからの情報は個人の関心のあることへ偏ってしまう。

(阿久津事務局長)

・コロナの自粛期間中も、適切な情報を得られてないがゆえに高齢者が外出している様子などあり、心配だった。

(崎原部会長)

・担い手不足はどこにでもある。子育てについては、する側される側が相互リンクする。マルシェでお菓子を配るといふ話をすると「私も配りたい」という人も多く出る。地域で面白いことをする経験や機会を増やせたらいいと思う。支援される側のママや子が自身でイベントを企画するようになるといい。

(阿久津事務局長)

・区の意識調査でもきっかけや参加しやすい雰囲気など

・お客さんが担い手になるような流れをつくっていききたい。

(高林会長)

・祭りや焼き鳥を買いに来た人が手伝ってくれると、次の年に個別に声掛けすると来てくれる。子供みこしに来た父に担ぎ手の依頼の手紙を渡すなどして参加者を増やしている。

(阿久津事務局長)

・地域活動のセミナーでも「焼きそばの屋台」の例がでる。キャベツを切ったり肉をいためたりの手伝いはできないが、青のりかけるくらいならできる。青のりくらいに分散すると人は参加しやすいという。

これをきっかけに、また様々なご意見をお願いします。

(以上)